

令和6年度 学校自己評価システムシート（大妻嵐山中学校・高等学校）

目指す 学校像	○建学の精神「学芸を修めて人類のために」を実現する学校 地域との連携の下で、学校社会貢献活動を推進する社会的価値を目指す学校 ○学祖大妻コタカ先生の教育理念に基づき、人格の陶冶を目指す学校 校訓「恥を知れ」の下で、自らを厳しく律し、自立した女性を育成する学校”	求める生徒像 ア・ミッションポリシー	①自らを学問的・人間的に鍛え、己の使命を果たし人類に貢献する女性 ②自らを厳しく律し、広い教養を備え、他を思いやる共感力と高い志を持つ女性	重点目標 グ・ラデュエーションポリシー	①未来を生き抜く「探究する力」を育成する ②未来を生き抜く「表現する力」を育成する ③未来を生き抜く「感じる力」を育成する ④未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する ⑤組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する
------------	---	-----------------------	--	------------------------	---

達成度 Aほぼ達成（8割以上）・B概ね達成（6割以上）・C変化の兆し（4割以上）・D不十分（4割未満）

番	現状と課題	目標	具体的方策	達成度	達成状況及び次年度への課題
I 入 試 広 報	①中学入試 受験者数はH29年度以後増加傾向、入学者数は50人程度で横ばいであるが目標には達していない。受験者数と入学者数の双方の増加を目指す必要がある。 ○「まなび力エキスパート入試」は、出願者が増加し第一志望入試として定着しつつある。 ○「第1回入試」では出願者が大幅に増加し、本校が打ち出す「多様性」への理解がある程度浸透している。 ○「わくわくワークショップ」は参加者が増加し、さらなる質的充実が必要である。 ②高校入試 受験者数は年度による変動が大きい、近年は目標に達していない。 ○地域指定校推薦制度が有効活用されるケースが増加している。 ○単願者数の増加、外回り対策及び社会貢献事業の一層の拡充が必要である。	①中学入試 ・入学者数：60人 ・学校説明会等への参加者170人 ・出願者総数：1,000人 （まなび力エキスパート入試：80人） ②高校入試 ・入学者数：150人 ・高校選択セミナー参加者170人 ・学校説明会等への参加者500人 ・単願受験：100人、併願受験：100人	①のびのび中学受験セミナーの新設 ①わくわくワークショップ開催 ①「一般入試」➡「大妻一般入試」の名称変更 ①学校説明会、オープンスクール、授業見学会の開催 ①入試問題解説会、入試体験会の開催 ①学習相談・個別相談会の実施、体育祭・大妻祭での個別相談会の開催 ②高校選択セミナーの拡充、入試攻略セミナーの新設 ②学校説明会、オープンスクール、授業見学会の開催 ②入試問題解説会、入試体験会の開催 ②個別相談会の実施、体育祭・大妻祭での個別相談会の開催	B	①中学入試については、第一志望入試の「まなびエキスパート入試」の出願が74名で入学手続きが58名(2/1現在)。いずれも目標値の9割を超えてほぼ目標を達成した。以下の点は今後の課題として改善が必要である。 ・「のびのび中学受験セミナー」は参加者20人弱。年度途中企画で広報不足 ・学校説明会等への参加者は242人。行事とあわせて説明会を複数設定したことにより、参加者が分散し単独の説明会やOSの参加者が減少した。 ・出願者総数は目標値の7割弱と減少。広報活動の充実強化及び関係学習塾との関係性構築が急務。 ②高校入試については、単願者が目標値の5割で、入学者数は目標の7割に満たないことが想定される。今後、説明会等の募集活動全般の大幅な見直しが必要である。 ・セミナー参加者は349組でおおよそ700名が参加し、その後の本校イベントの参加率が3割をこえ一定の成果をあげた。 ・学校説明会への参加者は331人。中学同様、行事と抱き合わせて開催回数を増やしたことにより単独の説明会やOSの参加者が減少した。 ・併願の出願は91人で目標の9割を達成した。
II 進 路 ・ 学 習 指 導	①進路に関する第一希望実現率の維持 R5年度卒業生は、国公立(8名)、早慶上理・GMARCH(10名)、大妻女子大(44名)、看護医療系(15名)などに進学し、90%以上の生徒が第一希望を実現している。 ②コース別特色化の強化 ○大妻進学コース(大妻グローバルコース) ……大妻女子大学への内部進学を目指す ○総合進学コース(スーパーアドバンスコース) ……中堅国公立大学及び難関私立大学への進学を目指す ○特別進学コース(スーパーアドバンスSSコース) ……よりレベルの高い難関国公立大学や最難関私立大学への進学を目指す ③年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)への対応の強化 ④国際理解教育「大妻グローバル」、科学的思考力を育成する「大妻サイエンス」の強化	①第一希望実現率95% 国公立7人、早慶上理ICU5人、医歯薬5人、GMARCH15人、大妻女子大50人 ②コースの特色を活かしたキャリア学習展開 ③増加を続ける年内入試への対応策の企画、立案及び実施、運営 ③総合型選抜及び公募推薦での合格率の向上 ④国際理解教育の推進とその基盤となる英語力の強化 ④科学教育の一層の推進と探究プロセス(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)の習得	①PBL学習(問題解決学習):大妻女子大学との連携事業「m_r tokyo girls」 ①大妻女子大学及び他大学との連携強化 ②大妻女子大学への進学準備「大妻ゼミ」、オンデマンド講座の聴講 ②他大学への総合型選抜及び学校推薦型選抜対策「総合進学サポートプログラム」 ②女子栄養大学、埼玉医科大学との連携協定による「なるには講座」新設 ②難関国公立や最難関私立大学合格のための学年縦割り「SS縦割り合宿」 ③長期休業中における授業型補習「サマーゼミ」、「ウインターゼミ」 ③放課後活用の教員及び卒業生メンターによる個別学習支援「嵐山個別塾」 ④英語劇、英語プレゼン、海外研修、海外修学旅行、英語検定試験 ④中学校でのオオムラサキの観察、高校でのミツバチの飼育	A	①現時点で、名古屋大、お茶の水女子大、東京農工大、群馬大、東京学芸大、北見工大など年内入試でも国公立大等に多数合格。 ②大妻女子大ワグマンド講義の準備が進んだ。「大妻ゼミ」は次年度に検証。女子栄養大と連携協定を締結。新規に特進SS合宿を学年縦割りで実施、高い学習意欲を持って取組み成果を上げた。 ③小論文、志望理由書、面接の指導を中心とする「総合進学サポートプログラム」を高校2年生を対象に本格実施。「嵐山個別塾」は現時点で18回、延べ53名の卒業生により実施、在校生の参加状況に改善の余地がある。 ④大妻グローバルの取組は待リス、カンボジア、オーストラリア研修が盛況。大妻サイエンスは、モソルでの研修に参加する生徒が出るなど、みつばちプロジェクトが拡充。理科の課題研究が総合型選抜等で難関大合格に結びついた。
III 生 徒 指 導	①大妻女子大学の付属校である本校は、校訓「恥を知れ」に象徴される「心のチカラ」の育成を重視している。 ②単なる満足度ではなく、学校に対するエンゲージメント(「深い関係性や関わり」School Engagement 学校に対する愛着、愛校心)をさらに高める必要がある。 ③生徒会活動及び部活動をさらに活性化させるとともに、自信を持って挨拶をし、高らかに校歌を歌う雰囲気づくりを進める。	①礼法、道徳教育の充実 ②本校生であることの「誇り」や大妻に学ぶ者としての「プライド」の伸長 ③生徒会行事の活性化、部活動による人格形成と強化部を中心とした活動実績の向上	①外部の専門家講師による「論語」講座、礼法指導、着付け教室の実施 ①「論語」の素読による豊かな心の育成 ②総合探究における「コタカ学」、生活目標としての学祖の言葉の掲示 ③生徒会行事(新入生歓迎会、激励会、大妻祭等)の充実 ③R7年度「放課後時間の活用」に向けての部活動活性化策の検討	B	①心の教育に関する行事は予定通り実施。外部講師によるマナ講座を新規に実施、対象学年を含め拡充の方向で検討したい。 ②学校評価アンケートでは、スケルエンゲージメント(学校への愛着)を測る指標において中学生89.1%、高校生85.7%が肯定的評価。 ③ウォークサーバル導入検討、大妻祭入場者数の目標値設定、全員で歌える歌を作り激励会で合唱等、生徒会活動の活性化の兆し。部活動は次年度の課題。
IV 社 会 貢 献	①昨年度までの「地域連携」を発展させ、「社会貢献」を前面に打ち立て、「社会的価値を創造する学校づくり」を推進する。社会貢献事業を通して、これからの世界で求められる、数値化されない「心のチカラ」を養うことが必要である。	①地域連携体制の整備、拡充 ①社会貢献事業への参加生徒の増加	①「大妻嵐山チャレンジプログラム」の拡充 ・嵐山町社会福祉協議会「夏休みボランティア体験プログラム」 ・嵐山史跡の博物館「高校生ボランティア」 ・嵐山町生涯学習課「らんざん子ども大学」 ・県立小川げんきプラザ「イバンド手伝いボランティア」 ・菅谷小学校学童保育室「支援員補助ボランティア活動」	A	①チャレンジプログラム募集説明会を学年全体とすることにより、参加者数が増加。嵐山町議会と共同した「嵐山町ハイスクール議会」を新規に発足、町議会議員とのディスカッションや嵐山町行政への一般質問を行い、PBLとしても有効だった。 ・地域連携等での課題研究を総合型選抜等に結び付ける仕組みづくりを次年度検討。